「日々の理科」（第 347 号） 2015（H27),-6,14

「アマドコロの根」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

小学校の自然観察では、さまざまな動植物について、四季を通して継続的に見るという方法が多い。しかし一方で、一つの植物の特徴を隅々まで調べることも、探究力を高める上では大切だと思う。私は北軽井沢の野草の一つアマドコロについて、もっとよく観察してみたいと思った。教師にとっては、その植物がどの程度、教材としての価値を持っているのかを研究することでもある。茎や花の次は根を観察してみた。

「アマドコロの根」　地下に長細い根茎を持っている。この根茎の長さは 15cm ほど。北軽井沢産。

アマドコロは多年草（宿根草）である。地下に長細い根茎を持っていて、雪の下で冬越ししたあと、いちはやくミョウガのような芽を出し、あっという間に花を咲かせる。アスパラガスと同じ仲間なので、芽生えたばかりの芽は、若いアスパラガスにも似ている。もちろん果実もつけ、種子からの繁殖も行う。根はいかにも食用になりそうだが、実際に養分が豊富な秋には、天ぷらなどにして食べられるという。

根茎をよく観察すると、節があることがわかる。この節はところどころに「くびれ」があり、そこが自然に切断されて、群落（同一種の植物が生育する範囲）を広げてゆくらしい。

ペットボトルの水に根を浸しておくと、1か月経っても枯れないので、教室でも非常に簡単に観察できる。アマドコロは山地の野草だが、植木鉢やプランターでも栽培できる。「根から育つ植物」として、教材としての価値もありそうだ。